

1. 開催年月日 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 13 時 30 分～15 時 30 分
2. 開催場所 岐阜県可児市広見七丁目 90 番地  
株式会社ケーブルテレビ可児 3 階 会議室
3. 出席委員数 6 名 (欠席 2 名)
4. 事業者側出席数 3 名
5. 議 題 1. 防災放送、訓練状況について  
2. 特別番組、通常番組について

1. 防災放送、訓練状況について

次の番組について試聴し、審議を行った。

1. 9 月 1 日 (日) 8:40 可児市防災訓練放送  
アナウンス : 吉田聖恵
2. 9 月 4 日 (水) 18:06 御嵩町緊急災害放送  
アナウンス : 田代宏樹
3. 10 月 27 日 (日) 8:00 美濃加茂市防災訓練放送  
アナウンス : 光永房代

- ・各自治体とも発信フォーマットがバラバラなので、内容や様式について統一すると良い。
- ・様々な情報ツールがある中で、コミュニティ FM の特性をよく認識すると良い。  
災害発生時、FM ならではの残っている場合と、並行して情報を得られる場合と両方のケースが考えられる。
- ・緊急災害放送は、誰でも情報を取捨選択して話せるよう原則的マニュアルが必要。
- ・災害発生時は、対策本部と並行して、可児レピータハムクラブなど市民からの情報をうまく集約できると有効的。
- ・9 月 4 日の訓練では CTK が可児レピータハムクラブの代表と生中継し、その音声を FM でも放送した。これにより運用が見込めたため、10 月 18 日に CTK、FM、ハムクラブの 3 者で災害時協力協定を結んだ。情報の責任は CTK が持ち、ハムクラブからの情報は確実か未確実かを明らかにして放送する。
- ・緊急災害放送の際、特定の地域に区切らずエリアを広くカバーし、情報と情報のあいだには「情報が入り次第、お伝えします」とこまめに案内を入れると良い。聴いていてもらえなければ情報が行き渡らず、努力も無駄になってしまう。

## 2. 特別番組、通常番組について

次の番組について試聴し、その他通常番組も含め審議した。

1. 10月20日（日）10:00 御嵩町産業祭特別番組  
パーソナリティ：TOPPY、徳田光恵、可児さとみ、益田川剛
2. 10月22日（火）7:20 モーニングライン火曜日  
コーナー「剛君の子どもばんざい」  
パーソナリティ：益田川剛

- ・どのパーソナリティも慣れてきて、メンバーチェンジがあってもうまくいっているように聴こえる。
- ・モーニングライン金曜日の馴れ合いは行き過ぎで、言葉遣いも良くない。自重を。
- ・オーラデショーロが大人っぽい内容と選曲でとても良い。周囲にも薦めている。
- ・それぞれが大きな背景をもったパーソナリティが集まっていて、素晴らしいと思う。
- ・話を身内だけで終わらせず、マイクの向こう側へ話しかけてほしい。
- ・剛君がとても味のある話し方で良い。本当に心を揺り動かされる内容を求めている人が多いと感じる。
- ・特番は、現場の状況をもっとよく伝えてほしい。会場や地域の解説がほしい。
- ・ずいぶん聴きやすくなってきた。スタッフも育ってきたと思う。
- ・マンデーレブンで、時々モラルの問われる表現があり気になる。公共意識を持ってほしい。
- ・モーニングライン火曜日で、一方が相手の話している途中で声をかぶせてしまうのが聞きづらい。
- ・御嵩ミーモスタジオのある履物店なかやにはよく行くが、スタジオが3月までと聞いて驚いている。せっかくロコミで町民に広まってきたのに、資金を理由にすぐ終わってしまうのが残念。
- ・パーソナリティの人材発掘が、もうひとつの柱だと思う。
- ・「地域でがんばる可児の人」に登場している市民のネットワークを、出演者の発掘に生かしてはどうか。

以上の意見が出され、全員承知した。